

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成 29 年 6 月 25 日

第 8 8 号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『88号は、富士山明細図の続きであったな。さて、富士山明細図は56図の絵になっておる。今日は10番目からじゃ。10の図には、父母御胎内が描かれておる。富士吉田登山道の中ノ茶屋から西に折れる道があって、しばらく進むと胎内にでるんじゃ。富士講の教義において「モトノチチハハ」の出生地として信仰されていたんじゃ。胎内という呼称から、安産の利益がある霊地とされていたんじゃよ。』

『胎内穴は、富士の溶岩によって形成された洞窟のひとつで、穴の中には子返り・産の紐・胞衣などと名付けられ

人体の体内を連想させるような造りがみられるでまっす。実に神秘的な場所でまっすん。』

『11の図は中ノ茶屋じゃ。浅間神社と馬返しのちょうど中間に位置するところから中ノ茶屋と命名されたと聞くぞ。道者は必然的に茶屋に立ち寄りざるを得ないような建物配置がなされているんじゃ。小屋の軒下には富士講の奉納したマネキが何枚も下がっているんじゃ。』

『マネキというのは、自講の名称と講印・講元・先達の名を染めた手ぬぐいの半分ほどの大きさの小旗のことをいうでまっすん。大我講のマネキもあつたでまっすん。』

『そうじゃな。中ノ茶屋で大我講の旗が風に揺られている様子を見たかったのう・・・さて、12の図は竜ヶ馬場が描かれておるぞ。竜ヶ馬場はかつて浅間の祭礼に流鏝馬が行われていたところと伝えられているんじゃ。図の下には、「旗掛松」と書かれた太い松が描かれているんじゃ。その名の由来は、源頼朝が富士の巻狩りの際に旗をこの松に掛けたことによると伝えられておるんじゃよ。源頼朝の富士の巻狩りは、多くの伝説が残っているんじゃな。』

『竜ヶ馬場には小山田信有文書というものがあって、「竜の馬場之上へ鳴物従古法度之事」とあり、竜ヶ馬場から上は、古来から鳴物を鳴らしてはいけない地とされていたでまっすん。ここより先は聖域とみなされ、竜ヶ馬場はその境界にあたるところだつたでまっすん。』

『本当に感心じゃな。さて13の図には、鈴原馬返シが描かれているんじゃ。鈴原という地名はスズ竹、ススキの原の意といわれておるんじゃ。馬返しの名のとおり、馬で行ける最終の地点だつたんじゃ。石鳥居が描かれているんじゃが、鳥居の下で富士山を遥拝している二人の道者の姿が見えるんじゃ。ここが遥拝の場となっていたのは、俗世と聖域の境界であつたからじゃな。現在は、富士スバルラインがあるお蔭で、五合目まで自動車で登ることができが、時間や労力を使って、一足一足富士山頂を目指した人々の心は、山頂に近づくほど、心が浄化されていったように思うぞ。次号は、一之岳大日社を紹介しようと思つておる。』

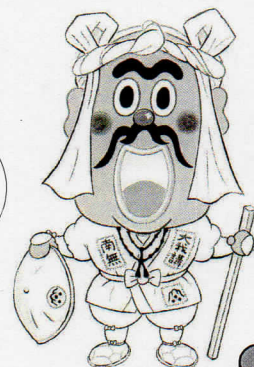
『おいらもしっかり勉強するでまっすん。次回も楽しみでまっすん。』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは案内責任者)